

総説

国内医学部が刊行する医学雑誌の現状 PubMed 収載にむけて

¹⁾ 獨協医科大学医学部・大学院医学研究科小児科学講座

²⁾ 順天堂大学本郷・お茶の水キャンパス学術メディアセンター

³⁾ 獨協医科大学医学部・大学院医学研究科病理学講座

今高 城治¹⁾, 城山 泰彦²⁾, 矢澤 卓也³⁾

要旨

世界の中で日本の大学の国際競争力が問われている。その大きな要因として、研究者の情報発信力の低下が指摘されている。医科学生物学分野における国際的研究論文が収載される米国 National Center for Biotechnology Information が運営する PubMed は、世界中の医学者が利用する権威のある非営利の検索エンジンである。日本国内の医学部における学内刊行誌においても、5つの英文ジャーナルが PubMed と共に Journal Citation Reports に掲載されジャーナル・インパクトファクターが付与されている。本稿では、日本国内の医学部で刊行されている学内誌の現状と、PubMed へ収載するための申請として、MEDLINE の受理の状況について紹介し、国内医学部が刊行する学術誌を国際化することの戦略的意義について述べる。

Key Words : 学会誌, 商業誌, 国際誌, オープンアクセスジャーナル, PubMed

1. はじめに

高等教育機関における学術研究の成果は、先ず各研究者が所属する様々な領域の学術団体が出版する雑誌（以下、学会誌）や、該当領域を専門分野とする学術出版社が刊行する雑誌（以下、商業誌）へ投稿される。次に複数名の専門的知識を有する査読者により論文の内容に関する査読が行われ、掲載の可否について多角的に判断されている。その後、最終的に無事に受理された論文のみが、冊子体として出版されている。また1990年代以降、多くのジャーナルがインターネットを介して論文をオープンアクセスジャーナルとして公開をしている。本稿では、先ず学会誌と商業誌の運営に関する3つの形態を説明する。その上で、日本国内の医学部が刊行する医学雑誌の現状について、学会誌と商業誌について解説し、オープンアクセスジャーナル化の重要性や、国際誌として

の PubMed 掲載の現状について紹介したい。

2. 学会誌と商業誌の運営に関する3つの形態

研究者が投稿するジャーナルの版元の機関は、2つの形態の学術誌と商業誌の3つの運営方式がある。様々な施設の研究者が集う学術団体が運営する学術誌の例として、イギリス医師会 (British Medical Association) が監修する『British Medical Journal』や、日本内科学会が刊行する『Internal Medicine』がある。また一つの高等教育機関ないしそれに関連する団体が母体となり運営している雑誌として、例えば500年の歴史を有するオックスフォード大学のオックスフォード出版局は、学内関係者に留まらず様々な領域の専門誌を刊行している。日本国内においても、東北大学大学院医学系研究科の教員組織を母体とする東北ジャーナル刊行会が発刊する『The Tohoku Journal of Experimental Medicine』が知られている。これら学術団体が運営するジャーナルは一般に学会誌と称されている。

一方、専門領域の学術書籍の発行を強みとする出版社が、専門分野の発展に貢献する目的と自社の出版ビジネスの運営を兼ねて出版する形態とする商業誌がある。ロンドンに拠点を置く国際的な科学出版社であるシュプリ

令和4年9月20日受付, 令和4年9月21日受理
別刷請求先: 今高城治

〒321-0293 栃木県下都賀郡壬生町北小林 880

獨協医科大学医学部小児科学

E-mail : geo@dokkyomed.ac.jp

表1 Journal Citation Reportsに掲載されている国内医学部刊行のジャーナル

英文ジャーナル名	刊行する国内医学部が所属する大学名	ジャーナル・インパクトファクターと付与された年
The Tohoku Journal of Experimental Medicine	東北大学	2.547 (2021年) 1.848 (2020年) 1.441 (2019年)
Journal of Nippon Medical School	日本医科大学	1.115 (2021年) 0.920 (2020年) 0.826 (2019年)
Nagoya Journal of Medical Sciences	名古屋大学	0.794 (2021年) 1.131 (2020年) 0.762 (2019年)
Acta Medica Okayama	岡山大学	0.744 (2021年) 0.892 (2020年) 0.642 (2019年)
Yonago acta Medica	鳥取大学	1.371 (2021年) 1.641 (2020年) 0.974 (2019年)

ンガー・ネイチャーが発刊する『Nature』は、世界的な権威のある商業誌として知られている。非営利団体である米国科学振興協会が刊行する『Science』も、国際的に権威のある商業誌に属する。また同様に、『Cell』も商業誌である。

3. 国内の医学部における刊行誌 —オープンアクセスの状況

日本国内の医学部においても、多くの大学が自ら学術団体の母体を運営しており、その延長線として学内刊行誌や紀要（以下、学内誌）を発行している。ここでは順天堂大学学術メディアセンターの城山が行った2つの先行研究である医学部ジャーナル調査について紹介したい。

国内医学部における学内誌の現状に着目して2017年2月に行われた調査¹⁾では、国内80の医学部において69の医学部で学内誌が刊行されていた。刊行されていた雑誌は全92誌で、英文誌と和文誌の内訳は、英文誌のみが5大学、和文誌と英文誌を刊行するが23大学、和文と英文の混合誌が29大学、和文誌のみが12大学であった。このうちインターネットを通じてオープンアクセス化していたのは、32大学(40.0%)の38誌(41.3%)であった。

継続研究として国内の医学部を有する全82大学を対象に2018年6月の時点で行われた調査では、94学内誌のうち77誌がオープンアクセス化され、12誌は電子化

されていなかった。77のオープンアクセスジャーナルのうち、厳格な収載基準をもつ『Web of Science』に掲載され、Journal Impact Factor値が付与される『Journal Citation Reports』に掲載されていた学内誌は5誌であった。内訳は、『The Tohoku Journal of Experimental Medicine』、『Journal of Nippon Medical School』、『Nagoya Journal of Medical Sciences』、『Acta Medica Okayama』、『Yonago acta Medica』で、全て英文誌であった。以下にそれらの英文誌名と刊行する医学部、および過去3年分のジャーナル・インパクトファクターを記す(表1)。なお、ジャーナル・インパクトファクターとは、各分野内において、そのジャーナルが持つ相対的な影響力の大きさを測る一つの指標である。端的には、その雑誌に掲載された論文が過去一年あたりに引用された回数の平均値を表すものである。

4. PubMedが管理するMEDLINEへの 収載申請と受理の状況

全世界で信頼されアクセス可能な医科学分野の検索エンジンとしてPubMedがある。PubMedは、National Center for Biotechnology Information (NCBI)が運営する生命科学や生物・医学分野に関するジャーナルの文献を収載する検索エンジンであり、当該分野で最も信頼性の高い非営利のサイトである。1966年から現在までの質の高い文献が網羅的に収められている。検索言語は英語で、世界中からアクセス可能であることから、一部

表2 各年度(10月1日～翌年9月30日)におけるMEDLINEに申請されたジャーナル数と審査に合格したジャーナル数

年度	MEDLINEに申請されたジャーナルの数	MEDLINE掲載の審査に合格したジャーナルの数と率
FY 2021	350	44 (12.6%)
FY 2020	416	50 (12.0%)
FY 2019	464	58 (12.5%)
FY 2018	470	52 (11.0%)
FY 2017	428	62 (14.5%)
FY 2016	394	55 (13.9%)
FY 2015	518	75 (14.5%)
FY 2014	493	59 (11.9%)
FY 2013	517	67 (12.9%)
FY 2012	559	93 (16.6%)

を除きPubMedに掲載される雑誌は英語のジャーナルである。一方、英語版のジャーナルであれば何でもPubMedの掲載が許可されるものではない。PubMedの掲載には、出版されたジャーナルの各論文の質や査読システムに関する厳格な基準がある³⁾。毎年、世界中のジャーナルが国際誌の証となるPubMed掲載の審査を申請している。PubMedに掲載される過程には、MEDLINEやPubMed Central (PMC), MEDLINE Plusの3つの経路がある。その中でNCBIが運営するWebサイトであるMEDLINEの基準をクリアするのは、過去10年あたりに申請されたジャーナルの概ね11~16% (表2)⁴⁾と極めて狭き門であり、仮に一度審査に落ちた場合はさらに2年以上経過しなければ再申請を行うことが出来ない規定がある³⁾。

5. おわりに—国内医学部が刊行する学術誌を国際化する意義

国内医学部が刊行している学会誌や紀要等の医学雑誌の現状について文献を引用しまとめた。また国際誌的な視点から、PubMedに掲載されている国内医学部が刊行する5つの国際誌について、過去3年分のインパクトファクターと共に紹介した。またNCBIが運営するPubMedについて、その掲載のシステムについて解説した。昨今、企業がブランドストーリーを紹介して経営力を上げる戦略に投資していることと同様に、各大学医学部においてもアカデミアにおける研究情報を発信する場として学内誌への関心が高まっている。その一方で、日本の大学の研究力の低下が指摘されている⁵⁾。日本の高等教育機関が国際競争力で先導を進むためにも、大学

および大学院の国際化が求められている。そうした観点からも、大学が運営する学内刊行誌をPubMedという国際誌の舞台に押し上げるという努力目標は、今後ますます重要なアカデミアの戦略になるのではないだろうか。

謝 辞 本稿をまとめるにあたり助言をいただきました獨協医科大学図書館の鈴木俊也、長岡智子の両氏、また同図書館の皆様にお礼を申し上げます。

文 献

- 1) 城山泰彦：国内医学部における、学内刊行誌、紀要誌の計量的分析—Open Access Journalとしての現状。第34回医学情報サービス研究大会、2017年8月26日～27日(関西医科大学・大阪)。
- 2) 城山泰彦：国内医学部における、学内刊行誌・紀要誌の計量的分析—国際誌を施行する学内誌の特徴と、引用文献の動向。第35回医学情報サービス研究大会、2018年8月4日～5日(国立オリンピック記念青少年総合センター・東京)。
- 3) Journal Selection for MEDLINE. https://www.nlm.nih.gov/medline/medline_journal_selection.html (2022年9月18日閲覧)
- 4) MEDLINE Journal Selection Statistics. https://www.nlm.nih.gov/medline/medline_statistics.html (2022年9月18日閲覧)
- 5) 石川真由美：国際競争と日本の大学—世界ランキングという鏡を通して。比較教育学研究 56: 140-149, 2018.

Current Status of Medical Journals Published by Medical Schools in Japan Toward the Accession to PubMed

George Imataka¹⁾, Yasuhiko Kiyama²⁾, Takuya Yazawa³⁾

¹⁾ *Department of Pediatrics, Dokkyo Medical University, Tochigi, Japan*

²⁾ *Hongo Ochanomizu campus, Juntendo University Academic Media Center, Tokyo, Japan*

³⁾ *Department of Pathology, Dokkyo Medical University, Tochigi, Japan*

The international competitiveness of Japanese universities in scientific fields is declining. A major factor has been pointed out as a lack of presentation skills among researchers. PubMed, operated by the National Center for Biotechnology Information (NCBI) in the U.S., is an authoritative non-profit academic site used by medical researchers around the world, where international research papers are published.

In Japan, five English journals published by medical

schools are listed in Journal Citation Reports as well as PubMed, and are assigned a journal impact factor.

In this paper presents the current status of English journals published in medical schools in Japan. In addition, the journal acceptance status of MEDLINE, published in PubMed is also presented. Finally, the internationalization strategy of journals published by medical schools in Japan is discussed.